

2025年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 15 日

1. 職名・氏名 准教授・松林順

2. 学位 学位 博士、専門分野 理学、授与機関 京都大学、授与年 2015

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

*1. 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

動物生態学（2） 2年

化学実験（1） 2年

保全生態学実習（1） 3年

水圏環境学実験（2） 2年

生物地球化学（2） 3年

山川里海連環学（2） 3年

科学英語Ⅱ（2） 3年

科学英語Ⅰ（2） 3年

*2. 内容・ねらい

動物生態学：水圏生態系が人類にもたらす恩恵と、その生態系機能を維持するために水圏動物が果たす役割に焦点を当てながら、動物生態学における重要事項について概説する。また、人間活動が水圏生態系に及ぼす影響とその保全や資源管理における動物生態学の重要性について論じる。

化学実験：化学薬品の使い方や実験器具の取り扱い方など実験室で安全に実験を行うために必要とされる事項について講述するとともに、重量分析、容量分析、吸光度分析など種々の化学分析の原理と操作法を学ぶ。

保全生態学実習：若狭地域における慣行農法と有機農法の水田において水環境や水生生物の分布状況を調査し、人間活動が生態系に及ぼす影響を考察する。

水圏環境学実験：水圏の環境と、生物多様性・生物生産のかかわりを理解するための、フィールドワーク、生物観察、分析などの手法を学ぶ。

生物地球化学：生物圏における元素循環のうち、生物が関与する炭素・窒素・リンの循環の特徴とグローバルに進行する地球環境問題との関連性およびそれらの改善に関する国際的な取り組みについて解説する。また、生物学・地球化学の関連分野で頻繁に用いられている同位体分析について、その発展の歴史や各研究分野における利用方法について学習する。

山川里海連環学：山川里海はすべて繋がっており、海の生態系や生産構造は陸域、河川、海洋の諸環境の影響を受けている。本講義では山川里海のつながりやその重要性について、海洋物理学的、生物地球化学的、生物学的、および人間生活の影響の側面から考えていく。

科学英語Ⅱ：分属した研究室関連分野の英語で書かれた書籍や文献をテキストとし、適宜解説を加えながら講読させ、内容を理解させる。

科学英語Ⅰ：海洋生物資源関連分野の英語で書かれた書籍や文献をテキストとし、適宜解説を加えながら講読し、内容を理解する。

*3. 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

講義においては、批判的思考力および文章作成能力を養うために、グループワークや研究発表に対する質疑応答、ライティングに関する集中的な解説等を盛り込んだ。特に、昨年度の学生指導を通じて、本学学生が科学的な文章作成のための訓練が不足していることを痛感したため、化学実験および動物生態学の最終レポートにおいて、事前にレポートの書き方に関する講義を実施したうえで、すべての学生の提出課題に対して入念なフィードバックを実施した。

【フィールドワーク等 2件（保全生態学実習・水圏環境学実験）】

(2)その他の教育活動
内容 ・ 研究室に所属した 3 年生の卒業研究指導を実施

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	
1. Hasegawa, E.A., <u>Matsubayashi, J.</u> , Tayasu, I., Goto, T., Inoue, H., Rossberg, A.G., Yoshimizu, C., Hasegawa, M., Akasaka, T. 2025. Isotope analysis of birds' eye lens provides early-life information. Progress in Earth and Planetary Science, 12: 9. (掲載年月：2025 年 1 月) 2. Suetsugu, K., Yagi, Y., Okada, H., <u>Matsubayashi, J.</u> 2024. The tiny-leaved orchid <i>Disperis neilgherrensis</i> primarily obtains carbon from decaying litter via saprotrophic <i>Ceratobasidium</i> . Mycorrhiza, 35: 9. (掲載年月：2025 年 2 月) 3. Shiga, A., <u>Matsubayashi, J.</u> , Ogawa, N.O., Ohkouchi, N., Iwai, N. 2025. Assessing the applicability of sequential eye lens stable isotope analysis for reconstructing dietary histories in amphibians. Limnology and Oceanography: Methods, 23: 336-345. (掲載年月：2025 年 4 月) *4. <u>Matsubayashi, J.</u> , Miura, K., Yamamori, E., Arimoto, Y., Yoshimizu, C., Tayasu, I., Tsuruga, H. 2025. Multiscale dietary analysis of brown bears in Hokkaido, Japan. Journal of Wildlife Management, 89: e70047. (掲載年月：2025 年 5 月) 5. Miura, K., Matsubayashi, J., Yoshimizu, C., Hino, T., Shirane, Y., Mano, T., Tsuruga, H., Tayasu, I. 2025. A novel method for fine-scale retrospective isotope analysis in mammals using eye lenses. Ecosphere, 16: e70276. (掲載年月：2025 年 5 月) *6. <u>Matsubayashi, J.</u> , Osada, Y., Kimura, K., Aoki, Y., Okazaki, M., Senda, T., Ueda, Y., Matsubara, N., Tsuda, Y. 2025. Fine - scale reconstruction of pelagic fish migration by iso - logging of eye lens. Methods in Ecology and Evolution, 17: 77-84. (掲載年月：2025 年 11 月)	
	【6 本】
③その他論文（査読なし）	
	【 本】
④学会発表等	
1. 目玉の同位体を分析してカツオの回遊履歴を調べる、2025 年度水産海洋学会研究発表大会シンポジウム（コンビーナー：北川貴士、横内一樹、 <u>松林順</u> 、米崎史郎）	
	【 件】
⑤その他の公表実績	
	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学内】	
1. 地域連携研究推進支援（代表・105 万円）	
【学外】	
1. 日本生命財団環境問題研究助成「若手研究・奨励研究」（代表・145 万円）	
2. 科研費国際共同研究強化 B（分担・54 万円）	
3. 科研費基盤 B（分担・100 万円）	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

②国・地方公共団体等の調査受託等 2-1. (水産庁)「水産資源調査・評価推進事業」のうち「国際水産資源動態等調査解析事業」・カツオを対象とした遺伝的集団構造の解明・2025 年 4 月－2026 年 4 月 2-2. (水産庁)「水産資源調査・評価推進事業」のうち「国際水産資源動態等調査解析事業」・アオザメ・ニシネズミザメを対象とした遺伝的集団構造の解明・2025 年 4 月－2026 年 4 月 2-3. (水産庁)「水産資源調査・評価推進委託事業」のうち「国際水産資源調査・評価事業」・カツオの同位体分析に基づく出自解明・2025 年 4 月－2026 年 4 月 ⑥開放講義 (丸岡高校)、福井県立大学、2025 年 7 月 9 日

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
(研究利益相反審査委員会、2025 年 4 月～2026 年 3 月) (オープンキャンパス担当、2025 年 4 月～2026 年 3 月)
(3)学内行事への参加
・ オープンキャンパス前日イベントにおいて、魚の解剖実習を担当
(4)その他、自発的活動など